

【あきたこまち、他品種とも初期生育は茎数不足の傾向】

1. 水稻の生育状況

本年の田植えは5月15日頃より開始されましたが、強風による代枯れ症状や低温、寡照日が続いた影響により、分けつの発生が多く圃場で遅れております。

あきたこまちの生育につきましては、草丈・茎数が平年を下回っており、葉齢から見た生育は「1～2日程度の遅れ」となっております。

今後は気温の上昇により回復傾向が期待されますが、ほ場によっては葉色が薄い様相にありますので、つぎを参考に今後の管理を心がけてください。

水稻定点調査圃の生育状況(6月6日現在)

※平年値は最高値と最低値を除いた過去10年の平均 ※あきたこまちの平均田植日は5月21日

品種(平均)	草丈(cm)		茎数(本/㎡)		葉齢(葉)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
あきたこまち	22.7	24.6	81.6	95	5.4	5.6
(慣行)	23.2		88.7		5.4	
(側条ベスト等)	22.3		76.3		5.3	
前年比(差)	87%		80%		-0.2 葉	
平年比(差)	92%		86%		-0.2 葉	
たつこもち	24.4	27.6	73	105	5.4	5.6
きぬのはだ	25.2	26.9	85	108	5.8	5.8
ときめきもち	21.9	25.2	87	95	5.4	5.5
サキホコレ	25.2	24.2	111	124	6.1	5.7

2. 今後の技術対応

1) 水管理

表層剥離の発生が多く見られる圃場については、水の入替えや浅水管理を実施し、茎数確保に努めてください。

2) 還元障害対策

還元障害(ガス害)による酸素不足で分けつの発生等が少ない圃場では、晴天日に3日～4日程度落水し、その後入水するなど改善に努めてください。

3) その他病虫害防除

イネヒメハモグリバエについては産卵及び幼虫による被害は確認されておりませんが、イネミズゾウムシによる葉の食害が見受けられます。食害が顕著に見られた場合はつぎの薬剤を散布し防除に努めてください。【トレボン粉剤 3kg/10a、トレボン粒剤 2～3kg/10a】

4) いもち病対策

補植用苗を長く圃場に置くと、いもち病の発生原因となりますので、速やかに補植を終了し、苗を処理してください。

「水稻技術情報」<https://www.ja-ogata.or.jp/farming2/>をホームページで閲覧の際は、これまで必要だったパスワード入力なしで閲覧可能になりました。

※水稻以外の技術情報は、これまで通りパスワードの入力が必要です。